

令和7年度 県南地域づくりキャンパス事業

大正大学：阿南市への移住・Uターン者取材と冊子「阿南人」の制作・動画配信

【事業の内容】

大正大学地域創生学部地域実習とは

2025年の地域実習Ⅱは9月29日～10月24日の期間で「南三陸町、東京都、南魚沼市、藤枝市、御坊市、淡路市、阿南市、今治市、益田市、延岡市」の10地域で実施。実習は「交流や対話を通じて地域に対する理解を深め、個人の関心テーマを明確にして就職やキャリアについて考えるきっかけになること」を目的とし、阿南市では、2年生10名・3年生2名が4週間（3年1名は2週間）にわたって市内視察・すだち収穫やSUP・マルシェ出店・秋祭りなど様々な体験交流に取り組み、それぞれ個人テーマの調査活動も行った。県南地域づくりキャンパス事業としては、阿南市内の移住・Uターン者にインタビュー取材して冊子「阿南人 Ver.UI」ターン」を制作し、取材の様子や記事、学生が作った動画などをホームページやSNSで発信した。

阿南に移住された皆様へ 取材のお願い

私たちは阿南市で実習中の大正大学生です。
このたびは市役所観光交流課や移住支援団体の協力を得て
Uターン・移住者へのインタビューを実施。
「地方創生2.0」で示された地域の新しい担い手＝関係人口を
テーマに阿南で活躍する人々の姿を調査・研究します。

取材目的



取材希望期間
10/14～10/20

取材内容は冊子「阿南人」をはじめ
冊子やSNSを活用し皆様の活躍を魅力的に発信していきます！
実習の活動や成果は「阿南人」HP/SNSを通じて広く発信

取材概要

大正大学地域創生学部
地域実習 阿南班 2年

大正大学 × Sudarich

大正大学 地域創生研究所 (株)すだち阿南 鈴江省吾 0684-49-3899

取材依頼のチラシ



インタビューの様子

移住・Uターン者の取材&記事作成の様子



取材に先立って、阿南市移住促進コーディネーターの笠谷紘平氏を講師に招き、阿南市への移住者の傾向や事例、移住施策について学んだ。また、タウン誌編集経験のある飛田さんに、インタビューの準備や話を聞くコツ、魅力的な記事の書き方について講義を受け、3つの取材チームを編成し、質問事項や役割分担を決めてアポ取りを開始。最終的に13人に取材を行い、記事を作成することができた。

冊子「阿南人 Ver.UIJ ターン」の配布

冊子にはインタビュー記事のほか、学生たちが独自で行った個人テーマの調査研究や実習活動の写真も記載。500部印刷（A4カラー、16ページ）し、取材対象者をはじめ、市内の移住支援団体、市役所、公民館、図書館、銀行、郵便局、市内小中学校、高校など関係機関に幅広く配布した。また、「阿南人」ホームページ・SNSで、インタビュー記事、学生たちが作った動画などの情報発信を行い、冊子内のQRコードからも閲覧してもらえるように工夫した。



完成した阿南人

まとめ

学生たちはインタビューでの「なぜ阿南を選んだのか?」「なぜ阿南へ帰ってきたのか?」という問いを通して、“未来の自分”とも重ねながら、阿南で暮らす移住者のリアルな声を聞き取りました。取材終了後に全員で内容を整理・分析すると、移住者にも明確な“タイプの違い”が存在することに気がつき、タイプ別マップを作成して移住動機や価値観、ライフスタイルの傾向を分類。その結果、「ライフスタイル重視型（波乗りタイプ）」「地元愛・自己表現型」「異文化・事業創造型」など、多様な志向性が浮かび上がりました。一方、すべての移住者に共通していると感じたのは、「自分のペースで生きられる心地よさ」や「地域や人とのつながり」に価値を見出していることでした。阿南という地域は、単なる居住地ではなく、自らの生き方を主体的に選択できる環境があり、関係性の中で暮らしが成立する場所として選ばれていることがわかってきました。今回の「阿南人」制作を通じて、阿南や「みなみ阿波」地域への魅力を感じて、移住してきた人たちが地域経済の担い手として活躍していることを知りました。今回制作した「阿南人」がそのことを多くの人に知っていただき、また新たな関係人口を呼び込むきっかけとなれば幸いです。今後とも、人口減少の中でも移住者やUターンした若者が活躍し、地域が循環していける「まちづくり」の研究を追求していきたいと考えます。



タイプ別分類表



成果報告会